## A semantic study of the“把”construction

Eiji Ota

As many Chinese grammarians have paid attention, in Chinese we can say, for example,

(1) 他　把　苹　果　吃　了
ta$^1$　ba$^3$　ping$^2$guo$^3$　chi$^1$　le
He　“ba”　apple　eat　asp-le
He ate the apple

as well as

(2) 他　吃　了　苹　果
ta$^1$　chi$^1$　le　ping$^2$guo$^3$
He　eat　asp-le　apple
He ate a/the apple

The aim of this paper is to make clear, from many points of view, in what cases it is possible to use such a construction as that of (1), taking into consideration what have been said by many researchers.

# “把”構文の意味的研究

太田　栄次

## はじめに

中国語においては、

(1) 他　吃　了　苹　果
ta$^1$　chi$^1$　le　ping$^2$guo$^3$
彼　食べる　asp-le　リンゴ
（彼はリンゴを食べた）

といった、いわゆる他動詞構文に対し、よく似た意味で、

(2) 他　把　苹　果　吃　了
ta$^1$　ba$^3$　ping$^2$guo$^3$　chi$^1$　le
彼　把　リンゴ　食べる　asp-le
（彼はリンゴを食べた）

といういい方が可能である。後者を“把”構文と呼ぶことにする。この“把”構文成立の条件については、多くの研究者が研究してきた。主なものに、1）アスペクト的制限、2）“把”に後続する名詞句の定性、3）"処置"の意味、があるが、まだ“把”構文の本質が明らかにされたとは言い難い。本論は“把”構文のより進んだ記述を目指すものである。

## 第１章　$NP_2$における特徴

“把”構文の中で“把”の直後に現れる名詞句（多くの“把”構文の中では２番目にあら

われることが多いので $NP_2$ と呼ぶ）はどのようなものでも受け入れられるわけではなく、制限がある。この章ではその制限について触れる。

### 1.1　NP について

$NP_2$ の制限について、朱德熙(1981)は「“把”の宾语（目的語）は意味上、常に定的（”特定”）なものである」と規定したが、これまでの $NP_2$ の条件についての議論で使われる“定”は、表現形式上の概念なのか、意味的な概念なのか、曖昧であった。王还（1984）も“有定、无定”と言う用語は英文法の定冠詞、不定冠詞に由来し、中国語では混乱を生ずるとしている。

本稿では、意味上の概念と形式上の概念をはっきり分ける。まず、意味上の区別は次のようなものを考える。NP のあらわしているものが話し手にとって何を指しているか特定できるようなものである場合、それを“特定”とする。NP が表わしているものが“特定”であり、かつ聞き手もどれを指すか特定していると話し手が思っているものである場合、それを“両者特定”とする。NP のあらわすものが何を指すかを話し手は特定しているが、聞き手は特定していないと話し手が思っているものを“話者特定”とする。また NP のあらわすものが何を指すか話し手も特定していないものを“不定”とする。NP があらわすものが個別的なものではなく一般的なものを指すと解釈されるものを“一般”として区別する。

また、形式上の区別については、中国語の NP は次の 3 タイプに分けられる。1）裸（bare）の形、2）“一＋数量詞”が名詞の前に置かれている形、3）“这＋数量詞／那＋数量詞 ”が名詞の前に置かれている形であり、それぞれの例は次のようである。

(1)　a　马
　　ma$^3$
　　（馬）
　b　一　　匹　　马
　　yi$^1$　　pi$^1$　　ma$^3$
　　一　数量詞　馬
　　（一匹の馬）
　c　这　　匹　　马
　　zhe$^4$　pi$^1$　　ma$^3$
　　この　数量詞　　馬
　　（この馬）

(1) の例は、それぞれ a 裸名詞句、b 不定名詞句、c 定名詞句と呼ぶことにするが、それらの違いは形式上の違いであり、意味的には文脈によって様々に解釈することができる。

(2) a 他　　没　　有　　喝　　酒
　　ta$^1$　mei$^3$ you$^3$　he$^1$　jiu$^3$
　　彼　　not　　飲む　お酒
　　(彼はお酒を飲んでいない)

(2) の例の NP “酒”(酒)が話し手にとって特定できるものであるかどうかに着目してみると、“酒”(酒)は裸名詞句であるが、話し手が特定できる、“あの酒”を指すかもしれないし、話し手に特定できない“ある酒”を指すのかもしれない、また、個別的なものではな

く一般的な“酒全般”かもしれない。つまり“特定”、“不特定”、“一般”としての解釈が可能である。これら NP の意味上の違いは、単純に文脈によっている。

一般に不定のものをあらわすとされる“一＋数量詞”が名詞の前に置かれている場合も、“特定”か“不特定”の間で曖昧であり、これも文脈によって決められる。

(3) 请　你　给　我　一支　笔　(“不特定”)
qing$^{2}$　ni$^{3}$　gei$^{3}$　wo$^{3}$　yi$^{1}$zhi$^{1}$　bi$^{3}$
どうぞ　あなた　あげる　私　一本　鉛筆
(私に鉛筆を一本ください)

(4) 他　错　过　了　一　个　机 会　(“特定”)
ta$^{1}$　cuo$^{4}$ guo$^{4}$　le　yi$^{1}$ ge　ji$^{1}$ hui$^{4}$
彼　逃す　asp-le　ひとつ　チャンス
(彼はチャンスを一つ逃した)

(3) においては通常、“一支笔”は話し手にとっては一本の任意の鉛筆である。一方、(7) における“一个机会”は話し手にとって任意のチャンスなのではなくて、(7) の文を発した人が“错过”(逃す) した、ある特定のチャンスなのである。

以下の議論では、この意味上の分類と形式上の分類が二つの別の概念であることを明確にしながら、$NP_2$ の制限について考察していく。

## 1.2　$NP_2$ について

### 1.2.1　$NP_2$ が定名詞句である場合

$NP_2$ が定名詞句である場合は、“把”構文の中で問題なく受け入れられる。

(5) a　他　吃　了　那　个　苹　果
ta$^{1}$　chi$^{1}$　le　na$^{4}$　ge　ping$^{2}$guo$^{3}$
彼　食べる　asp-le　あの　数詞　リンゴ
(彼はあのリンゴを食べた)

b　他　把　那　个　苹　果　吃　了
ta$^{1}$　ba$^{3}$　na$^{4}$　ge　ping$^{2}$guo$^{3}$　chi$^{1}$　le
彼　把　あの　数詞　リンゴ　食べる　asp-le
(彼はあのリンゴを食べた)

(6) a　我　喝　了　那　瓶　酒
wo$^{3}$　he$^{1}$　le　na$^{4}$　ping　jiu$^{3}$
私　飲む　asp-le　あの　数詞　酒
(私はあの酒を飲んだ)

b　我　把　那　瓶　酒　喝　了
wo$^{3}$　ba$^{3}$　na$^{4}$　ping　jiu$^{3}$　he$^{1}$　le
私　把　あの　数詞　酒　飲む　asp-le
(私はあの酒を飲んだ)

(5) a、(6) a は他動詞構文であるが、その目的語、“那个苹果”(あのリンゴ) と“那瓶酒”(あの酒) は話し手が特定でき、かつ、話し手は自分が特定したものと同じものを聞

き手もまた特定できると思っている。つまり、“両者特定”である。また、(5) b、(6) b は“把”構文であるが、この中に現れる $NP_2$ もまた、“両者特定”である。中国語では、定であるならば“両者特定”であるということが成り立つといえる。

### 1.2.2 $NP_2$ が裸名詞句の場合

$NP_2$ が裸名詞句である場合も、“把”構文の中で問題なく受け入れられる。

(7) a 他 吃 了 苹 果
ta$^1$ chi$^1$ le ping$^2$ guo$^3$
彼 食べる asp-le リンゴ
(彼はリンゴを食べた)

b 他 把 苹 果 吃 了
ta$^1$ ba$^3$ ping$^2$ guo$^3$ chi$^1$ le
彼 把 リンゴ 食べる asp-le
(彼はあのリンゴを食べた)

(8) a 我 喝 了 酒
wo$^3$ he$^1$ le jiu$^3$
私 飲む asp-le 酒
(私は酒を飲んだ)

b 我 把 酒 喝 了
wo$^3$ ba$^3$ jiu$^3$ he$^1$ le
私 把 酒 飲む asp-le
(私はあの酒を飲んだ)

上記の例で、(7) a、(8) a は他動詞構文であり、その目的語の“苹果”(リンゴ)、“酒”(酒)は裸名詞句として現れているが、“特定”として理解される場合、“不特定”として理解される場合、“一般”として理解される場合がある。どのような解釈を受けるのかは文脈によっている。

一方、(7) b、(8) b は、“把”構文の例であるが、$NP_2$ の裸名詞句があらわすものは、話し手と聞き手の間で程度の差こそあれ一定の共通理解をもったものであり、“両者特定”として理解される。つまり、“苹果”(リンゴ)“酒”(酒)は、話し手にとって特定可能であるのみならず、聞き手も特定可能であると話し手が思っているものである。なお、裸名詞句が“一般”と理解されるものもあるが、これについては 1.2.5 で触れる。

### 1.2.3 $NP_2$ が不定名詞句の場合

下記の (9) (10) (11) の例は、把”NP の前に(“一+量詞”)がある不定名詞句である。このような不定名詞句が“把”構文の中で受け入れられることは従来の“把”構文研究の中で重要視されてこなかったが、このような“把”構文は少なくない。

(9) a 他 错 过 了 一 个 机 会
ta$^1$ cuo$^4$ guo$^4$ le yi$^1$ ge ji$^1$ hui$^4$
彼 逃す asp-le 一つ 数詞 チャンス
(彼はひとつのチャンスを逃した)

b 他 把 一 个 机 会 错 过 了

ta$^{1}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ ge ji$^{1}$ hui$^{4}$ cuo$^{4}$ guo$^{4}$ le
彼 把 一つ 数詞 チャンス 逃す asp-le
（彼はひとつのチャンスを逃した）

（10） a 他 到 了 一 杯 茶
ta$^{1}$ dao$^{4}$ le yi$^{1}$ bei$^{4}$ cha$^{2}$
彼 こぼす asp-le 一 数詞 お茶
（彼は一杯のお茶をこぼした）

b 他 把 一 杯 茶 到 了
ta$^{1}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ bei$^{4}$ cha$^{2}$ dao$^{4}$ le
彼 把 一 数詞 お茶 こぼす asp-le
（彼は一杯のお茶をこぼした）

（11） a 李 四 丢 了 一 本 书
Li$^{3}$ si$^{4}$ diu$^{1}$ le yi$^{1}$ ben$^{3}$ shu$^{1}$
李四 なくす asp-le 一 数詞 本
（李四は一冊の本をなくした）

b 李 四 把 一 本 书 丢 了
Li$^{3}$ si$^{4}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ ben$^{3}$ shu$^{1}$ diu$^{1}$ le
李四 把 一 数詞 本 なくす asp-le
（李四は一冊の本をなくした）

$NP_2$が不定名詞句として現われるとき、“把”構文で受け入れられるのは、(9) b～（11）b のように“話者特定” としてそれが理解される場合である。つまり、それらの NP があらわすものは話し手にとって何を指すのか特定できるが、聞き手が特定できるかどうか話し手にとって関心がないものとして解釈される。もし不定名詞句が“不特定”であると解釈される場合、つまり話し手にとって特定できないようなものをあらわす NP が“把”構文の中で使われると、その“把”構文は受け入れられなくなる。

（12） a 请 你 给 我 一 支 笔
qing$^{2}$ ni$^{3}$ gei$^{2}$ wo$^{3}$ yi$^{1}$ zhi$^{1}$ bi$^{3}$
どうぞ あなた くれる 私 一 数詞 鉛筆
（私に鉛筆一本取ってください）

b＊请 你 把 一 支 笔 给 我
qing$^{2}$ ni$^{3}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ zhi$^{1}$ bi$^{3}$ gei$^{2}$ wo$^{3}$
（私に鉛筆一本取ってください）

（13） a 我 把 一 本 书 送 给 了 他
wo$^{3}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ ben$^{3}$ shu$^{1}$ song$^{1}$ gei$^{2}$ le ta$^{1}$
私 把 一 数詞 本 贈る あげる asp-le 彼
（私は一冊の本を彼に送りました）

b＊你 有 没 有 把 一 本 书 送 给 他？
ni$^{3}$ you$^{2}$ mei$^{2}$ you$^{3}$ ba$^{3}$ yi$^{1}$ ben$^{3}$ shu$^{1}$ song$^{1}$ gei$^{2}$ ta$^{1}$
あなた 疑問形 把 一 数詞 本 贈る あげる 彼
（あなたは一冊の本を彼に送ったのですか？）

（12）a では一本の鉛筆は話し手にとっては「どれでもいいから一本とってください」ということであり、特定する必要はない。従って（12）b はいえない。また（13）a では“私”が送ったのであり、この文脈では“贈った一冊の本”は“私”にとって特定可能だということは文脈上自然な解釈であるが、(13) b ではそのような解釈が失われており、“一冊の本”は話し手にとって特定不可能である。従って（13）b はいえない。

また、以下の（14）a は、これまでの“把”構文の研究において $NP_2$ の制限を満たしていないために非文であるとされてきた。(14) b のように書き換えるとその文は問題なく受け入れられる。

（14）a＊他　把　一　件　衣 服　洗　干　浄　了
ta$^1$　ba$^3$　yi$^1$　jian$^4$　yi$^1$ fu　xi$^3$　gan$^1$ jing$^4$　le
彼　把　一　数詞　服　洗う　きれい　asp-le
(彼はある一枚の服を洗ってきれいにした。)

b 他　把　那　件　衣 服　洗　干　浄　了
ta$^1$　ba$^3$　na$^4$　jian$^4$　yi$^1$ fu　xi$^3$　gan$^1$ jing$^4$　le
彼　把　あの　数詞　服　洗う　きれい　asp-le
(彼はあの一枚の服を洗ってきれいにした。)

$NP_2$ が不定名詞句である場合、文脈に応じて“特定”にも“不特定”にも解釈され、それがあらわすものが“特定”と解釈されるものであれば $NP_2$ として受け入れられるが、どのような条件によって解釈が左右されるのか詳しく調べる必要がある。あくまでも推察の枠を出ないのであるが、動詞句の意味的特徴がその解釈の違いに関わっていると考えられる。例えば、(14) a での $NP_2$ が“特定”と解釈されず受け入れられないは、動詞句“洗干浄”（洗ってきれいにする）という行為がいたって日常的な行為であり、繰り返し行われる行為だからである。従ってその中でどの“一件衣服”（一枚の服）を洗ってきれいにしたのか特定できる可能性は低い。一方次のような例は、不定名詞句が $NP_2$ として現れているにも関わらず“把”構文として受け入れられる。

（15）他　不　小　心　把　一 个　热　水　瓶　打　坏　了
ta$^1$ bu$^4$ xiao$^3$ xin$^1$ ba$^3$　yi$^1$ ge　re$^4$ shui$^3$ ping$^2$　da$^3$　huai$^4$　le
彼 not　用心　把　一 数詞　ポット　打つ 壊れる　asp-le
(彼はうっかりして一つのポットを壊した)

彼がうっかりして“热水瓶”（ポット）を“打坏”（壊す）行為は一回性の行為であり、そうたびたび起こる事柄ではない。しかも、“热水瓶”（ポット）をいくつももっている人は想定しにくい。おそらくこれらの理由で“一个热水瓶”（一つのポット）は特定可能性が高くなり、“把”構文の中で受け入れられるということが考えられる。

### 1.2.4　$NP_2$ が疑問名詞句である場合

“把”構文においては $NP_2$ が、意味的に“特定”としての解釈を受ける場合にのみ受け入れられることを見てきたが、奇妙なことに、“特定”のものをあらわさないはずの疑問名詞句が $NP_2$ として受け入れられることがある。これまでの“把”構文研究において、このような“把”+疑問名詞句はテーマとしてあまり取り上げられてこなかった。

（16） 你　把　什　么　放　在　锅　里？
ni³　ba³　shen² me　fang⁴　zai⁴　guo¹　li³
あなた　把　何　入れる　場所（～に）　鍋　中
（あなたは何を鍋の中に入れたのですか？）

（17） 你　把　谁　得　罪　了？
n i³　ba³　shui²　de²　zui⁴　le
あなた　把　誰　困らせる　asp-le
（あなたは誰を困らせたのですか？）

（16）（17）の例では、“把”の後ろに疑問名詞句が現れている。このような場合、“什么”（何）や“谁”（誰）は話し手にとって既知ではなく、“不特定”として解釈されそうに思われる。しかし、話し手にとってはっきりとは特定されていないが、話し手が“什么”（何）と聞いているものは他の何かではなく、“鍋の中に入れられた”あるものなのであり、“谁”（誰）と聞いているのは、誰か他の人ではなく“困らせられた”ある人である。つまり、疑問名詞句として聞かれているものは、話し手にははっきり特定できないものの明らかに話し手の心理では、あるまとまりを持ったもの、それ以外のものとははっきり区別されるものである。その意味で疑問名詞句があらわすものは“特定”として扱われている可能性がある。

（18） 你　要　把　哪儿　打　洞？
ni³　yao⁴　ba³　nar³　da³　dong⁴
あなた　したい　把　どこ　打つ　穴
（あなたはどこに穴をあけたいの？）

（18）の例は、クーラーを買ってきて部屋の壁のどこかに穴をあけないといけないという状況で発話されることが想定できる。その場合、$NP_2$ があらわしている“どこか”は話し手にとってはどこなのか“特定”されてはいないものの、どこかに穴をあけなければならないという前提があり、そのどこかが話し手の心の中で既に存在しているという点において、その疑問名詞句があらわすものはある意味で特定されているといえる。

### 1.2.5　$NP_2$ が“一般”と理解される場合

何かを何かと見なす、或いは、例えるという意味を持った“把”構文の中で現れる $NP_2$ は、裸名詞句であっても“両者特定”ではなく、“一般”として理解される。

（19） 我　国　的　诗　人　爱　把　桥　比　作　虹
wo³　guo²　de　shi¹　ren₂　ai⁴　ba³　qiao²　bi³　zuo⁴　hong²
私　国　の　詩　人　好き　把　橋　例える　作る　虹
（わが国の詩人は橋を虹に例える事が好きだ）

（19）の例で、“虹”（虹）に例えられるのは、ある“桥”（橋）ではなくて、橋一般なのである。他にこのような“何かを何かと見なす、或いは、例える”という意味を持つ“把”構文を構成する動詞は“比作”（～に例える）、“喻为”、（～に例える）“称为”（～と称する）、“当作”（～として扱う）、“看作”（～と見なす）、“看成”（～と見なす）、“误作”（～と誤解する）などがある。このような、いわゆる“見なし”の動詞群があらわす行為は、ある NP のあらわすもの全体に影響を与える行為である。従ってその NP があらわすものは話し

手の心理にあるまとまりをもったものとして捉えられるものであり、ある意味で特定されているといえよう。

### 1.3　まとめ

以上の考察をまとめると、“把”構文における $NP_2$ の必要条件は、広い意味で“特定”であることであり、それがあらわすものが話し手にとって他のものと区別されたまとまりとして捉えることが可能なものであることであるといえる。

## 第 2 章　把構文のアスペクト的特徴

“把”構文の中で使われる動詞句に制限があることは広く知られており、動詞句のアスペクト的要素が深く関わっていることは、多くの研究者（Hashimoto　1971、呂　1980、Li　1990、Liu　1997、Sijbesma　1992 など）が指摘してきた。本稿では、まず把構文をその動詞句の種類によって分類する。分類の際には動詞の後の成分に注目した。

### 2.1　$NP_2$+ V + 了

#### 2.1.1　“了”について

さて“把+ $NP_2$+ V +了”という構造では“了”があらわれる必要があるので、まず“了”について考察する。“了”は、動詞のあとについて、出来事が完結したことをあらわす。この他にも、文末について、文が表わしている出来事に対して話者が何か新しい発見をしたということを意味する“了”があり、これまでの研究において、動詞の直後の“了”は出来事の完結をあらわす“了”とし、文末の“了”は状態の変化をあらわす語気助詞の“了”として区別されてきた。本稿も動詞の直後の“了”と文末の“了”を区別する。“把”構文では完結をあらわす“了”がないと成立しなくなる場合があるが、語気助詞の“了”の有無は“把”構文の成立に影響を及ぼさない。以下では語気助詞の“了”は扱わず、完結をあらわす“了”のみを考察の対象にする。

（1）　a 我　把　苹　果　吃　了
　　wo³　ba³　ping²　guo³　chi¹　le
　　私　把　リンゴ　食べる　asp-le
　　（私はリンゴを食べた（特定のリンゴを全部食べた））
　　b＊我　把　苹　果　吃
　　wo³　ba³　ping² guo³　chi¹
　　私　把　リンゴ　食べる
　　（私はリンゴを食べる）

（1）の例で動詞の対象は“苹果”（ある特定のリンゴ）であり、動詞句は、食べ始めるという事柄の始発点と特定のリンゴを食べてしまってなくなるという動作の行き着く限界（終着点）によって区切られている出来事をあらわす。さらに、“了”によってその出来事が完結したことをあらわす。その場合、“ある特定のりんごを食べる”という出来事の一部分が起こったのではなく、全体において成立したことが意識されるのであり、出来事は全体として他の出来事から切り離され、明確な境界をもった出来事として捉えられる。この

ような出来事を「完結性」を持った出来事と呼ぶ。この出来事の完結性により、$NP_2$ があらわすものが完全に、また全体的に影響を受けるという意味も自然に導き出される。

また例文（1）で見たように、“把 $NP_2$+V+了”では“了”がないと成立しない。このことは、出来事の完結性が“把”構文の重要な成立条件であることを示唆している。

### 2.1.2　動詞句の特徴

ここでは、2.1.1 で述べた“了”の働きを踏まえた上で“把 $NP_2$+V+了”の V の意味特徴を明らかにする。

この構文で現れる典型的な動詞は、行為のあとで、対象についてある“変化”が起こることが含意されているものであり、典型的にはつぎのような動詞である。

（2）我　把　那　个　人　杀　了　（陳暁程　2001）
wo$^3$ ba$^3$ na$^4$ ge ren$^2$ sha$^1$ le
私　把　あの　数詞　人　殺す　asp-le
（私はあの人を殺した）

（3）我　把　旧　房　子　拆　了　（陳暁程　2001）
wo$^3$ ba$^3$ jiu$^4$ fang$^2$ zi chai$^1$ le
私　把　古い　家　壊す　asp-le
（私は古い家を壊した）

“把”構文では、動詞の後ろにいわゆる補語が付いた形で現われることがほとんどであるが、“杀”（殺す）“拆”（壊す）はその対象に対してある変化を生じさせる動詞であり、またその変化は動詞それぞれにつき明確に特定される。たとえば、“杀”（殺す）では対象が死ぬことが、“拆”（壊す）では対象がばらばらになることが含意されている。ほかに“挂”（掛ける）“穿”（着る）“贴”（貼る）などもこの種の動詞である。それらの動詞句があらわす出来事は、$NP_2$ のあらわすものの状態変化という動作の終着点を内包しており、その終着点によって区切られた出来事である。さらに、この出来事は“了”を伴って完結性を備えた出来事として捉えられる。この出来事の完結性を補強するものとして、$NP_2$ が“特定”であり、$NP_2$ があらわすものの状態変化も全体に、また完全に起こるものであるという解釈になるということがある。

“打”（打つ）“踢”（蹴る）も、あるものに対して働きかけることをあらわし、これらの動詞があらわす出来事が発生すれば、動作の対象に何らかの状態変化が起こることが想定できる。しかし、それがどのような変化であるか明確に示されているわけではなく、（4）a のように全く変化しないかもしれない。その点において、上記の、対象の明確な状態変化を含意した“杀”（殺す）“拆”（壊す）のような動詞類と異なる。（4）b が示すようにこのような動詞は“把 $NP_2$+V＋了”の中では受け入れられない。

（4）a 我　踢　了　那　个　球，但　是　没　打　中
wo$^3$ ti$^1$ le na$^4$ ge qiu$^2$, dan$^4$ shi$^4$ mei$^2$ da$^3$ zhong$^4$
私　蹴る　asp-le　あの　数詞　ボール　しかし　not　打つ　命中する
（私はあのボールを蹴ったけれども命中しなかった。）

b＊我　把　那　个　球　踢　了
wo$^3$ ba$^3$ na$^4$ ge qiu$^2$ ti$^1$ le

私　把 あの 数詞 ボール 蹴る asp-le
（私はあのボールを蹴った）

“走”（走る）“学”（学ぶ）のような動詞があらわすのは主に主体の行為であり、目的語に対して働きかける動作ではない。従って、他動詞構文においては目的語をとるものの、その動作が完結したときにも、目的語のあらわすものに関して状態変化が想定されない。このような動詞は、“把+$NP_2$+V+了”の中では受け入れられない。

（5）＊我　把　这　条　路　走　了
wo$^3$ ba$^3$ zhe$^4$ tiao$^2$ lu zou$^3$ le
私　把 この 数詞 道 行く asp-le
（私はこの道を行った）

運動性を持たない“有（有る）”、“知道（知る）”、“像(似ている)”などのような状態動詞や“爱（愛する）恨（恨む）”ような心理的状態をあらわす心理動詞、“听”（聞く）“看(見る)”のような視覚的状態をあらわす知覚動詞は、他動詞構文において目的語をとるものの、主体と対象との関係、或いは主体の心理的な状態をあらわす動詞であり、対象に対して何ら働きかけることない動詞であり、状態変化も引き起こさない。これらの動詞は“把+$NP_2$+V+了”の中では受け入れられない。

（6）＊我　把　这　件　事　知　道　了
wo$^3$ ba$^3$ zhe$^4$ jian$^4$ shi$^4$ zhi$^1$ dao$^4$ le
私　把　この 数詞　事　知る　asp-le
（私はこの事を知った）

（7）＊李 四　把　玛 丽　爱　了
Li$^3$ si$^4$ ba$^3$ Ma$^3$ li$^4$ ai$^4$ le
李四　把　マリー　愛する asp-le
（李四はマリーを愛した）

次に挙げる動詞があらわしていることは、ある動作や行為ではなく、主体と対象との関係であり、対象に対して何ら働きかけをすることのない事態である。しかし、予測に反して、この動詞は“$NP_2$+V+了”の中で受け入れられる。

（8）我　把　那　件　事　忘　了
wo$^3$ ba$^3$ na$^4$ jian$^4$ shi$^4$ wang$^4$ le
私　把　あの　数詞　事　忘れる　asp-le
（私はあの事を忘れた）

これが可能なことは、解釈に苦しむことではあるが、“那件事”（あの事）が覚えているという状態から“忘”（忘れる）ということを通じて、覚えていないという状態へ変化するということと捉えることができるかもしれない。この変化は話者の心理内で起こるある劇的な変化であると見なすことができるのであろう。

### 2.1.3　まとめ

以上のことをまとめると、“$NP_2$+V+了”の中で受け入れられるためには次の二つの条件が必要である。1）動詞が $NP_2$ があらわすものの状態変化を含意しているものでなければならず、また、その状態変化は明確に特定されるものでなくてはならない。2）出来事が完結

したことをあらわす“了”が必要である。

これまでの“把”構文研究では、このような観察を踏まえて、動詞句において対象の状態変化が何らかの形で明示されなければ、“把”構文の中で受け入れられないとされてきた。しかし、その条件は“把+$NP_2$+V+了”が成立するためには必要であるが、“把”構文が成立するための必要条件ではないと考えられる。そのことは 2.5 及び 2.6 で触れるが、出来事が完結性を備えたものとして解釈されるために、対象の状態変化の表現が何らかの重要な働きをしているのではないかとは考えられる。

### 2.2　$NP_2$ + $V_1$-$V_2$（+ 了）

$V_1$-$V_2$ は動詞連続をあらわすが、動詞連続とは 1 つの文や節の中で複数の動詞が直接続く現象を指す。“把”構文の中で動詞連続は多く現れるが、動詞連続といっても、中国語では動詞と形容詞との区分の問題がある。というのも、動詞と形容詞は多くの共通点をもっているからである。例えば、どちらも直接述語になり、“不”（not）を用いて“A 不 A”という形式で問いを発することができる。もちろん、ある特徴においては両者には違いがある。しかし、動詞と分類されるものでも、動作の意味が弱く、他の動詞が備えている特徴をもっていないものもあり、そのような場合は形容詞と容易に分かちがたい。動詞と形容詞の境界ははっきり分けられるものではなく、緩やかな連続体として捉えられるものであると思う。本稿も動詞或いは V という用語を使うが、その指示する範囲は、一般的に形容詞とされているものも広く含む。以下は $V_2$ の特徴に従って“把”構文で現われる動詞連続を分類して記述した。なお、その分類は陳暁程（2001）を参照した。

#### 2.2.1　典型的な $V_1$-$V_2$ の場合

“把”構文での典型的な $V_1$-$V_2$ については第 4 章で詳しく扱うが、簡単にまとめると $V_1$ は $NP_2$ に変化をもたらす原因となる行為を表わし、自動詞のことも他動詞のこともある。$V_2$ は典型的には自動詞（形容詞も含む）であり、$NP_2$ の状態や属性の変化をあらわす。

（9）我　把　杯 子　打　坏　了
wo$^3$ ba$^3$ bei$^1$ zi da$^3$ huai$^4$ le
私　把　コップ 打つ 壊れる asp-le
（私はコップを打ち壊した。）

$V_2$“坏”（壊れる）によって $NP_2$ があらわすものの状態変化が明確に示されており、そのような事柄を $V_1$-$V_2$ が全体として表わしているのである。

#### 2.2.2　V2 が方向動詞の場合

方向動詞とは“上”（上がる）“下”（降りる）“来”（来る）“去”（去る）“进”（入る）“出”（出る）“起”（立ち上がる）“回”（戻る）“过”（過ぎる）などの方向性を伴う動作を指す。

（10）我　把 他　叫　过　来　（“过来”が $V_2$）　（陳暁程　2001）
wo$^3$ ba$^3$ ta$^1$ jiao$^4$ guo$^4$ lai$^2$
私 把　彼　呼ぶ 渡る　来る
（私は彼を呼んでやって来させる。）

（11）我　把　朋　友　带　来　了

wo$^3$ ba$^3$ peng$^2$ you$^2$ dai$^4$ lai$^2$ le
私 把 友達 連れる 来る asp-le
（私は友達を連れて来た。）

（12）我 把 门 关 上 了
wo$^3$ ba$^3$ men$^2$ guan$^1$ shang$^4$ le
私 把 門 閉じる 合わせる asp-le（“上”の本来の意味は〈上がる〉）
（私は門を閉じて隙間がないようにした。）

“把”構文ではこの方向動詞が動詞の後について $NP_2$ のあらわすものの移動を表わし、一般的に方向補語と呼ばれるのであるが、“把”構文で使われた場合、それは $NP_2$ があらわすものの移動、つまり状態変化を表わし、2.1 と同様に扱うことができる。

### 2.2.3 V1-V2 が目的語をとる場合

“把”構文の中で $V_1$-$V_2$ が目的語名詞（以下 $NP_3$）をとることがある。このとき $NP_3$ があらわすものと $NP_2$ があらわすものの関係はいくつかに分類できる。

（13）a 我 把 花 瓶 拿 到 桌 子 上 去 了（陳暁程 2001）
wo$^3$ ba$^3$ hua$^1$ ping$^2$ na$^2$ dao$^4$ zhuo$^1$ zi shang$^4$ qu$^4$ le
私 把 花瓶 持つ 行く テーブル 上 行く asp-le
（私は花瓶をテーブルの上まで持っていった）

b 我 把 菜 放 在 锅 里
wo$^3$ ba$^3$ cai$^4$ fang$^4$ zai$^4$ guo$^1$ li$^3$
私 把 野菜 入れる ある 鍋 中
（私は鍋の中に野菜を入れた）

（13）の例のように $NP_3$ が $NP_2$ があらわすものの移動した先の場所をあらわす場合がある。この場合、$V_2$ は“到”“在”であるが、これまでの研究ではこれらの動詞が動詞の直後に現れた場合は“介词”として分類されてきた。しかし“介词”と動詞の違いもはっきり線引きすることは困難であり、動詞と“介词”は“自”（～から）や“从”（～より）のように動詞らしいところが全くないものから、本来動詞であり、しかも動詞らしい性質を備えた“到”“在”のようなものまで緩やかな連続体として捉えらえることができると考えられる。本稿では、“到”“在”が単独で目的語を伴って述語になることもできることから、広い意味で動詞と分類した。

（14）我 把 橘 子 剥 开 了 皮
wo$^3$ ba$^3$ ju$^2$ zi bo$^1$ kai$^1$ le pi$^2$
私 把 みかん 剥く 開く asp-le 皮
（私はみかんの皮を剥いた）

$NP_2$ のあらわすものと $NP_3$ のあらわすものや人とが所属関係または分離不可能の関係にある場合がある。例えば（14）の例では $NP_2$ があらわす“橘子”（みかん）と V1-V2 の後ろに置かれている“皮”（皮）は、剥かれる前は分かち難く存在しているものである。

（15）我 把 苹 果 切 成 两 半儿 了 （陳暁程 2001）
wo$^3$ ba$^3$ ping$^2$ guo$^3$ qie$^1$ cheng$^2$ liang$^3$ banr$^4$ le
私 把 リンゴ 切る 成る 半分 asp-le

（私はリンゴを切って半分にした）

（15）の例は $NP_3$ のあらわすものや人が $NP_2$ のあらわすものの変化した結果である場合であり、この場合 $V_2$ には“成”“作”などが立つ。この“把”構文は $NP_2$ があらわすものを $NP_3$ があらわすものにする、見なす、呼ぶ或いは例えるという意味を持っている。

（16）我　把　作　业　　交　　给　　老 师　　了　（陳暁程　2001）

wo$^3$ ba$^3$ zuo$^4$ wen$^2$ jiao$^1$ gei$^3$ lao$^3$ shi$^1$ le

私　把　宿題　　渡す あげる　先生　asp-le

（私は宿題を先生に渡した）

（16）の例では $NP_2$ のあらわすものの所有者が変化し $V_1$-$V_2$ の後の名詞があらわす人が新たな所有者である場合であり、この場合 $V_2$ は“给”である。この“给”も一般的には“介词”として分類されるのであるが、“在”“到”での議論と同じ理由で動詞と分類した。

以上のように、“把 $NP_2$+$V_1$-$V_2$+$NP_3$”であらわされる出来事は、$NP_2$ があらわすものの状態変化が示される形で行為の終着点が明確に示されるという点で共通している。

### 2.2.4　まとめ

“把+$NP_2$+$V_1$-$V_2$（+了）”の形式をいくつかに分類して考察してきたが、どれも $NP_2$ に対するなんらかの状態変化が明確に示されており、それは動詞句のあらわす事柄の終着点と見なすことができる。またこの形式で現れる“把”構文は“了”なしで成立する場合があるが、その場合でも完結性を備えた出来事として捉えられる。なお、どのような場合“了”なしで“把”構文が成立するかの詳しい考察はこれからの課題である。

### 2.3　$NP_2$+V+得

中国語研究では、“V+得”として使われる“得”は、動詞の後ろに置かれて、その動作、或いは性質がどんな状態（程度）に達しているかを述べるものであり、構造助詞として分類される。しかし“得”は動詞として単独で使われることができるため、“得”を動詞として扱うことにする。

（17）我　把　菜　　炒　得　太　　咸　　了

wo$^3$ ba$^3$ cai$^4$ chao$^3$ de tai$^4$ xian$^2$ le

私　把　野菜 炒める 得 とても 塩からい asp-le

（私は野菜を炒めた結果、とても塩辛くなった。）

（17）の例では、“咸”（塩辛い）で $NP_2$ があらわすものの状態変化が表現されており、その意味で全体があらわす出来事は明確な終着点をもっている。また“野菜が塩辛くなった”という出来事は“菜”（野菜）全体において成立しており、またその変化は完結していることから、完結性を備えているといえる。

“V+得”が“把”構文で使われるとき、“V+得”以下の句は、$NP_2$ があらわしているものの状態変化をあらわしていなければならないという条件がある。“V+得”以下の句が $NP_2$ ではなく $NP_1$（“把”の前の名詞句）の状態変化をあらわしている場合、“把”構文として受け入れられない。（18）の例では、“得”以下の句“もうすぐ立てなくなる”のは $NP_1$ によってあらわされる“私”に起こった状態変化であり、“把”構文は成立しない。

（18）a 我　喝　酒　喝　得　　快　　站　不　起来　　了

wo$^3$ he$^1$ jiu$^3$ he$^1$ de kuai$^4$ zhan$^4$ bu qi$^3$ lai$^2$ le
私 飲む 酒 飲む 得 もうすぐ 立つ not 起き上がる asp-le
（私はお酒を飲んだ結果、もうすぐ立てなくなる。）

b＊我 把 酒 喝 得 快 站 不 起来 了
wo$^3$ ba$^3$ jiu$^3$ he$^1$ de kuai$^4$ zhan$^4$ bu qi$^3$ lai$^2$ le
私 把 酒 飲む 得 もうすぐ 立つ not 起き上がる asp-le
（私はお酒を飲んだ結果、もうすぐ立てなくなる。）

このように、“把+NP$_2$+V+得”の構文であらわされる出来事は終着点が NP$_2$ があらわすものの状態変化によって明確に与えられており、従って完結性を備えているといえる。

### 2.4 NP$_2$+着

V+着”があらわす機能について、木村英樹（1983）では“着”には二つあって、“動作持続”をあらわす“着”（以下“着 d”d=durative）と“状態持続”をあらわす“着”（以下“着 p” p＝perfective）は区別されている。

（19）书 在 墙 上 挂 着
shu$^1$ zai$^4$ qiang$^2$ shang$^4$ gua$^4$ zhe
本 に 壁 上 掛ける 着 p (asp-zhe)
（本が壁に掛かっている）

（20）我 听 着 他 的 话
wo$^1$ ting$^1$ zhe ta$^1$ de hua$^4$
私 聞く 着 d (asp-zhe) 彼 の 話
（私は彼の話を聞いている）

（19）の例は“着 d”の例であり、本を壁に掛けた後、本が依然として壁にかかったままの状態であることを意味している。（20）の例は“着 p”の例であり、今まさに彼の話を聞いているということを意味し動作の進行を表わしている。

また、（21）のようにどちらの意味でも解釈できる例もある。

（21）他 穿 着 衣 服
ta$^1$ chuan$^1$ zhe yi$^1$ fu
彼 着る 着 p／着 d (asp-zhe) 服
（彼は服を着ている）着 d の読み → 今、服を着ている最中である
着 p の読み → 今、服を着た状態である

ここで (21)の文が“着 d”と“着 p”の解釈のどちらの解釈も可能であるということに注目する。しかしながら、“把”構文の中で受け入れられる読みは“着 p”の方だけであるということである。

（22）把 衣 服 穿 着 吧
ba$^3$ yi$^1$ fu chuan$^1$ zhe ba
把 衣服 着る asp-zhe 語気助詞
（服を着た状態でいてください）

“着 p”は結果状態の持続をあらわすが、それによってあらわされる出来事は動詞によってあらわされる動作が完結した結果の持続である。つまり出来事は完結性を持った出来

事として捉えられている。

### 2.5　$NP_2$+V“了”V／V一V／一V

動詞がV了V或いはV一Vのような“重疊式”をとる場合、また“一V”のような形式をとる場合は、どちらも「ちょっと～する、～してみる」のような意味を付け加える。このような動詞句が“把”構文で使われた場合、$NP_2$があらわすものに何らかの状態変化が起こったことは想定できるが、どのような変化か明確に読み取れるわけではない。

（23）我　把　桌　子　擦　了　　擦（陳暁程　2001）
wo$^3$ ba$^3$ zhuo$^1$ zi　ca$^1$　le　　ca
私　把 テーブル 拭く asp-le 拭く
（私はテーブルをちょっと拭いた）

（24）我　把　眼　一　瞪　　（陳暁程　2001）
wo$^3$ ba$^3$ yan$^3$　yi$^1$ deng$^4$
私　把　目　一　見開く
（私は目をかっと見開く）

（25）我　把 衣 服　洗　一 洗
wo$^3$ ba$^3$ yi$^1$ fu　xi$^3$　yi　xi$^3$
私　把　服　洗う　一 洗う
（私は服をちょっと洗う）

動詞がこのような形式をとる場合の意味は複雑なものであるが、大雑把にいって、動作量が少ないことをあらわす。すなわち、動作の時間が短いこと、動作の回数が少ないことをあらわす。従って動作は終わりのない開かれたものではなく、すぐに終わるものであり、動作の終着点を想定することができる。またこのような文法形式があらわすものは、ひとまとまりの出来事と見なされる。つまり完結性を持った出来事として解釈されるのである。2.1.2 において、“打”（打つ）は“把 $NP_2$+打+了”において $NP_2$ のあらわすものがどのように状態変化するかが明確でないがゆえに受け入れられないと述べた。これに対し、“重疊式”において $NP_2$ があらわすものがどのような変化するか明確に読み取れるわけではないにもかかわらず“把”構文において受け入れられるのは、“重疊式”はそれがあらわす出来事の完結性を備えているが、“把 $NP_2$+打+了”の形においては、$NP_2$ のあらわす状態変化が明確に指示されていないために、それがあらわす出来事の完結性において欠けるものがあると考えられるのである。

### 2.6　$NP_2$+V+（了）+動量詞

動量詞とは動詞があらわす動作・行為の回数や期間を述べるものである。

（26）爸 爸 把　儿 子　骂　了　　一　顿
ba$^4$ ba ba$^3$ er$^2$ zi　ma$^3$　le　　yi$^1$ dun$^4$
父親　把　息子　叱る asp-le ひとしきり
（父親は息子をひとしきり叱った）

（27）老　师　把“把”字 句　讲　　了　一　遍　又　一　遍（陳暁程　2001）
lao$^3$ shi$^1$　ba$^3$ ba$^3$ zi$^4$ ju$^4$　jiang$^3$　le　yi$^1$ bian$^4$　you$^4$　yi$^1$ bian$^4$

先生　把　　把構文　説明する asp-le　一 度　また 一　度
（先生は何回も何回も“把”構文を説明した）

これらの例において、$NP_2$ のあらわすものの状態変化は明確には含意されない。しかし、動詞があらわす動作或いは行為の限界は明確である。従って、$NP_2$+V+（了）+動量詞で表わせる出来事は終着点をもっており、また完結性を備えているということが言える。

### 2.7　まとめ

この章で見てきたことをまとめると、2.1 では動詞が単独で現れている場合を考察した。動詞のあらわす出来事の終着点はＮＰ$_2$であらわされる対象の状態変化で示され、また“了”を伴うことで完結性を持った出来事として認識されるものであることが分かった。なお、動詞が対象に対して何らかの働きかけをあらわす場合でも、その結果生じる対象の状態変化が明確に示されない場合は“把”構文の中で受け入れられない。2.2、2.3 では動詞句が $V_1$-$V_2$ のような動詞連続のである場合と動詞句が V+“得”である場合について考察した。いずれも動詞句のあらわす出来事の終着点が明示されており、また“了”がなくとも動詞句のあらわす出来事は完結性を備えている場合がある。2.4 では動詞句が“V+着”である場合について考察した。“把”構文で受け入れられる“V+着”は動詞があらわす事柄が完結した後の $NP_2$ の結果状態の持続をあらわす場合であり、事柄は完結性を備えた出来事として解釈されることを見た。2.5、2.6 では動詞句が V 了 V、V 一 V、一 V 及び V+動量詞である場合について考察した。この場合 $NP_2$ の状態変化がある程度想定されるものの、それがどのような変化かが明示されていない。しかし動詞句があらわす事柄はある限度が示されており、動詞句のあらわす事柄は終着点が与えられ、動詞句のあらわす出来事は完結性を備えているといえる。これらの観察により動詞句が対象の変化を含意していないものであっても、それが完結性を備えているならば“把”構文で受け入れられると見ることができる。

私が主張したいのは“把”構文が成立するための必要条件は、出来事が完結性を備えているということであって、$NP_2$ のあらわすものの状態変化の明示ではないということである。これまでの“把”研究では $NP_2$ のあらわすものの何らかの変化が“把”構文の成立に必要な要素のひとつであると主張されてきたが、$NP_2$ があらわすものの何らかの変化は“把”構文があらわす出来事が完結性を備えたものと解釈されるための一つの要素にすぎない。$NP_2$ の状態変化を明示する以外にも動詞を“V 了 V”や“V 一 V”“一 V”のような“重疊式”にしたり、“V+動量詞”にすることで動詞があらわす事柄に終着点を与え、完結性を持った出来事として解釈できるようにすることができる。その場合、$NP_2$ の状態変化がどのようなものか明確に認識することができないが、“把”構文の中で受け入れられる。

## 第 3 章　“把”構文の $NP_1$

“把”構文の研究の中でよく行われてきた、$NP_1$（“把”の前方に立つ名詞句）のあらわすものが $NP_2$ のあらわすものに対して何らかの働きかけ（$V_1$ であらわされる）をし、その結果として $NP_2$ にある変化（$V_2$ であらわされる）が起こるということを意味する“処置”という言葉を使って説明するやり方は誤りだと言わざるを得ない。私が主張したいことは、“把”構文において $NP_1$ と動詞句との間に直接的な意味関係はないということである。次

のような例（Ke Zou 1995）はこの主張を支持する。

（1） 他　把　他　的　汽 车　修　好　了
ta$^{1}$　ba$^{3}$　ta$^{1}$　de　qi$^{4}$ che$^{1}$　xiu$^{1}$　hao$^{3}$　le
彼　把　彼　の　車　修理する　良くなる　asp-le
（彼が自分で車を修理した）
（彼が（別の人に頼んで）車を修理してもらった）

（2） 玛 丽　把　她　的　坏　牙 齿　拔　掉　了
ma$^{3}$ li$^{4}$　ba$^{3}$　ta$^{1}$　de　huai$^{4}$　ya$^{2}$ chi$^{3}$　ba$^{2}$　diao$^{4}$　le
マリー　把　彼女　の　悪くなった　歯　抜く　落ちる　asp-le
（マリーは彼女の悪くなった歯を自分で抜いた）
（マリーは彼女の悪くなった歯を（別の人に頼んで）抜いてもらった）

（3） 李 四　把　他　的　头 发　剪　掉　了
Li$^{3}$ si$^{4}$　ba$^{3}$　ta$^{1}$　de　tou$^{2}$ fa　jian$^{3}$　diao$^{4}$　le
李四　把　彼　の　髪　切る　落ちる　asp-le
（李四は彼の髪を自分で切った）
（李四は（誰かに頼んで）彼の髪を切ってもらった）

上記の例は、使役的な読みと他動的な読みのどちらも可能である例である。このような例が少なからず存在することや、また（4）、（5）の例文に見られるように人や有性物のもの以外に無性物も“把”構文の主語になることを考えると、$NP_1$ を直接の動作主としてよりも、“把”の後ろの部分があらわす出来事を引き起こした原因（直接的原因かもしれないし間接的原因かもしれない）と見た方が良い。

（4）地　震　把　马　路　震　坏　了
di$^{4}$ zhen$^{4}$　ba$^{3}$　ma$^{3}$ lu$^{4}$　zhen$^{4}$　huai$^{4}$　le
地震　把　道　揺れる　壊れる　asp-le
（地震が起こってその揺れが道を壊した。）

（5）爱 情　把　他　冲　昏　了　头
ai$^{4}$ qing$^{2}$　ba$^{3}$　ta$^{1}$　chong$^{1}$　hun$^{1}$　le　tou$^{2}$
愛情　把　彼　こみ上げる　くらくら　asp-le　頭
（愛情がこみ上げてきて彼は頭がくらくらした。）

（4）、（5）の例では“地震”（地震）や“愛情”（愛情）は、一般的に人や物に対して働きかけることができないと思われるが、そのような名詞であっても“把”構文の主語として受け入れられるのである。

また、“把”構文では、故意ではないというミステイクの意味を含意することがある。

（6） 他　把　你　的　手　表　弄　坏　了
ta$^{1}$　ba$^{3}$　ni$^{3}$　de　shou$^{3}$ biao$^{3}$　nong$^{4}$　huai$^{4}$　le
彼　把　あなた　の　時計　“make”　壊れる　asp-le
（彼はあなたの時計を壊してしまった）

（7） 他　在　火 车 里 把　钱　包　丢　了
ta$^{1}$　zai$^{4}$　huo$^{3}$ che$^{1}$ li$^{3}$　ba$^{3}$　qian$^{2}$ bao$^{1}$　diu$^{1}$　le
彼　に　汽車　中　把　財布　落とす　asp-le

（彼は汽車の中に財布を落としてしまった。）

以上のような文は“把”を使うことによって、ミステイクの意味を強調しているのであって、“把”を使わなければ、意外性やミステイクのニュアンス（故意ではない）が読み取りにくくなる。

(8) 他　弄　坏　了　你　的　手　表
ta$^{1}$　nong$^{4}$　huai$^{4}$　le　ni$^{3}$　de　shou$^{3}$ biao$^{3}$
彼　“make”　壊れる asp-le　あなた の　時計
（彼はあなたの時計を壊した。）

(9) 他　在　火　车　里　丢　了　钱　包
ta$^{1}$　zai$^{4}$　huo$^{3}$ che$^{1}$ li$^{3}$　diu$^{1}$　le　qian$^{2}$ bao$^{1}$
彼　に　汽車　中　落とす　asp-le　財布
（彼は汽車の中に財布を落とした。）

以上のことにより“把”構文の主語であるＮＰ$_1$は、意識的に何らかの目的を持って動作を行う動作主というよりも、ある出来事を引き起こす直接的または間接的な原因と見たほうが妥当であると思われる。

# 第４章　動詞連続とＮＰの意味関係

この章では、“把”構文の中で現われる動詞連続に焦点をあてる。以下の（1）は“把”構文であらわれる動詞連続の例である。

(1) 我　把　苹　果　吃　完　了
wo$^{3}$　ba$^{3}$　ping$^{2}$ guo$^{3}$　chi$^{1}$　wan$^{2}$　le
私　把　リンゴ　食べ　終わる　asp-le
（私はリンゴを食べ終わった。）

例文(1)は、“我”（私）が“苹果”（リンゴ）に対して“吃”（食べる）という働きかけをし、結果としてリンゴが“完”（終わる）という変化をもたらしたことを意味する。

“把”構文全体の主体“我”を NP$_1$、“把”の後の NP“苹果”を NP$_2$ とし、前に現れる方の動詞“吃”を V$_1$、後ろの動詞“完”を V$_2$ と呼び、動詞連続に現れるそれぞれの動詞の特徴及びそれぞれの動詞と NP$_1$、NP$_2$ との関係を特にその意味的観点から分析する。

### 4.1　自動詞－自動詞

まず、動詞連続 V$_1$V$_2$ が自動詞+自動詞の場合、それぞれの動詞と NP$_1$、NP$_2$ との関係について考察する。

**NP$_1$(V$_1$ の主体) ＋ 把 ＋ NP$_2$（V$_2$ の主体）＋ V$_1$（自動詞）－V$_2$（自動詞）**

(2) 我　把　被　子　睡　破　了
wo$^{3}$　ba$^{3}$　bei$^{4}$ zi　shui$^{4}$　po$^{4}$　le
私　把　布団　寝る 破れる　asp-le
（私は寝て布団が破れた）

(3) 我　把　床　睡　弯　了

wo³　ba³　chuang²　shui⁴　wan¹　le
私　把　ベット　寝る　曲がる　asp-le
（私は寝てベットが曲がった）

ここで注意しなければならないことは、中国語では自動詞と他動詞の区別がはっきりしてないことがあり、特に $V_2$ で現れる動詞は自動詞としても他動詞としても解釈できそうな場合が多い。例えば上記の例（2）の“破”は（破る／破れる）のどちらでも解釈可能に見える。しかし、“破”（破る）を他動詞として“我破了被子”とはいいにくく、“睡破”（寝て破った）のような動詞連続を使って“我睡破了被子”のように言うのが一般的である。また、“破”も“被子”の動作をあらわすことができ、“被子破了”（布団が破れる）と問題なく言える。従って本稿では“破”を自動詞と分析した。以下の例文中で $V_2$ を自動詞と分類したことについても同じ理由からである。

**$NP_1$（原因）＋ 把 ＋ $NP_2$　（$V_1$ の主体及び $V_2$ の主体）＋ $V_1$（自動詞）－$V_2$（自動詞）**

（5）这　张　床　把　人　睡　懒　了
zhe⁴　zhang¹　chuang²　ba³　ren²　shui⁴　lan³　le
この　数詞　ベット　把　人　寝る　怠ける　asp-le
（このベットは人が寝て怠けるようにさせる）

（5）の例では、ベットや布団は意識的に“人”（人）に「働きかける」ことはできない。ベットや布団の状態は間接的に人の状態の変化をもたらす原因であるに過ぎず、ベットや布団は動詞連続 $V_1V_2$ のいずれかがあらわす行為の主体や対象であるということもない。

**$NP_1$（原因）＋把＋$NP_2$（$V_1$ の主体の所有物及び $V_2$ の主体）＋$V_1$（自動詞）－$V_2$（自動詞）**

（6）这　张　被　子　把　腿　睡　软　了
zhe⁴ zhang¹　bei⁴ zi　ba³　tui³　shui⁴　ruan³　le
この　数詞　布団　把　足　寝る　軟らかくなる　asp-le
（この布団は足を寝てだるくさせる。）
→　この布団で寝ると足がだるくなる。

（6）の例において $NP_2$ “腿”(足)は $V_1$ “睡”（寝る）の主体の所有物である。

### 4..2　他動詞－自動詞

他動詞－自動詞の動詞連続は“把”構文として最も一般的である。また動詞連続と $NP_1$ 、$NP_2$ との意味関係も様々である。しかし、どの場合も“把”構文で現れる $V_1V_2$ の条件は $V_2$ が $NP_2$ の状態変化を表していなければならない。

(7) a 李 三　追　累　了　张　三　（Ya Fei Li 1998）
Li³ san¹　zhui¹　lei⁴　le　zhang¹ san¹
李三　追いかける　疲れる　asp-le　張三
1（李三が張三を追いかけて張三が疲れた）
2（張三が李三を追いかけて張三が疲れた）
3（李三が張三を追いかけて李三が疲れた）

b　李　三　把　张　三　追　累　了

Li³ san¹　ba³　zhang¹ san¹　zhui¹　lei⁴　le
李三　把　張三　追いかける　疲れる　asp-le
1（李三が張三を追いかけて張三が疲れた）
2（張三が李三を追いかけて張三が疲れた）
＊3（李三が張三を追いかけて李三が疲れた）

（7）a では以上のように 3 つの解釈が可能であるが、一方（7）b の“把”構文の例文では興味深いことに解釈が限られ“張三”が疲れたという読みしか許されない。以下では動詞連続と $NP_1$ 、$NP_2$ の意味関係について分析し、典型的には $V_2$ が $NP_2$ の状態変化を表していなければならないという条件が満たされていることを見ていく。

**$NP_1$（$V_1$ の主体）＋ 把 ＋ $NP_2$（$V_1$ の対象及び $V_2$ の主体）＋$V_1$（他動詞）－$V_2$（自動詞）**

（8）我　把　头发　剪　短　了
wo³　ba³　tou² fa　jian³　duan³　le
私　把　髪の毛　切る　短い　asp-le
（私は髪の毛を切って髪の毛が短くなった。）

この例文において、“我”（私）が直接“头发”（髪の毛）に働きかけるということがもっとも自然な解釈であるであるが、私が直接髪の毛に働きかけて切るという解釈以外にも、私が、間接的に、つまり、誰かに髪の毛を切るように頼んで、結果的に自分の髪の毛が短くなったという解釈もできる。このことについては第 3 章ですでに見た。

**$NP_1$（$V_1$ の主体及び $V_2$ の主体）＋把 ＋ $NP_2$（$V_1$ の対象）＋$V_1$（他動詞）－$V_2$（自動詞）**

（9）他　把　那　本　书　拿　走　了
ta¹　ba³　na⁴　ben³　shu¹　na²　zou³　le
彼　把　あの　数詞　本　持つ　行く　asp-le
（彼はあの本を持っていった。）

$NP_2$“那本书”（あの本）は $V_2$“走”（行く）の主体ではなく、状態変化が直接表現されいるわけではないが、$NP_1$“他”（彼）が“拿走”（持っていく）際に“那本书”（あの本）も移動することが含意されている。従って、“把”構文で許されているのであろう。

**$NP_1$（$V_1$ の対象）＋ 把 ＋ $NP_2$（$V_1$ の主体及び $V_2$ の主体）＋$V_1$（他動詞）－$V_2$（自動詞）**

（10）一 大 堆　衣 服　快　把　她　洗　趴 下　了
yi¹ da⁴ dui¹　yi¹ fu　kuai⁴　ba³　ta¹　xi³　pa¹ xia⁴　le
数量詞　服　もうすぐ　把　彼女　洗う　寝そべる　asp-le
（一積みの服がもうすぐ彼女を洗い寝そべらせる）

→　彼女は一積みの服を洗うことでもうすぐ（疲れて）寝そべってしまいそうだ。

### 4.3　自動詞－他動詞

次に $V_1V_2$ がそれぞれ自動詞、他動詞である動詞連続には次のようなものがあるが少ない。

**$NP_1$（$V_1$ の主体及び $V_2$ の主体）＋ 把 ＋ $NP_2$（$V_2$ の対象）＋$V_1$（自動詞）－$V_2$（他動詞）**

（11） 我　把　时　间　睡　忘　了
wo$^3$　ba$^3$　shi$^2$jian$^1$　shui$^4$　wang$^4$　le
私　把　時間　寝る　忘れる　asp-le
（私は寝て時間を忘れた）

### 4.4　他動詞－他動詞

$V_1V_2$が他動詞、他動詞といえる例も少ない。

**$NP_1$（$V_1$の主体及び$V_2$の主体）$NP_2$（$V_1$の対象及び$V_2$の対象）$V_1$（他動詞）－$V_2$（他動詞）**

（12） 他　把　话　听　误　会　了
ta$^1$　ba$^3$　hua$^4$　ting$^1$　wu$^4$ hui$^4$　le
彼　把　話　聞く　誤解する　asp-le
（彼は話を聞いて誤解した。）

### 4.5　まとめ

“把”構文で現れる動詞連続のほとんどが$V_2$を自動詞とするものである。その場合、$NP_1$は動詞連続とさまざまな意味関係を持つことが可能であるが、$V_2$があらわす動作または状態は$NP_2$があらわすものの何らかの状態変化を示す。例外的に（7）は$NP_2$があわらすものが動詞連続と意味的関係を持っていないが、私が本を持っていくならば本も同時に移動する。従ってここでも$NP_2$の状態変化が含意されていると言える。

また、$V_2$が他動詞の場合は少ないが$V_2$に現れることを許されるのは“打”（打つ）や“吃”（食べる）のような意図的な動作をあらわす動詞ではなく、“忘”（忘れる）“误会”（誤解する）のような意図的ではない事柄をあらわす動詞であり、かつ$NP_2$のあらわすもののある種の変化をあらわす意味合いが強い動詞である。つまり（9）の場合は“忘”（忘れる）という出来事が起こり、“时间”（時間）が忘れられる状態になったという変化の意味合いがある。また（10）では、“误会”（誤解）という出来事が起こり、“话”（話）が誤解された状態になったという状態変化を表している。以上のことから、動詞連続が“把”構文の中で現れる場合は、$V_2$が自動詞、他動詞のどちらの場合でも、$NP_2$があらわすものの何らかの状態変化をあらわすことがその条件であるといえる。

## 第５章　まとめ

“把”構文における、いくつかの意味的特徴について考察してきた。

第１章では、$NP_2$はその形態が裸名詞句、不定名詞句、或いは定名詞句のどれであっても“把”構文の中で受け入れられるが、その形態がどうであれ、その意味的特徴は、話し手がそれが何をさしているか特定できるものであり、また、“特定”と解釈されるNP以外にも疑問名詞句や一般的なものを指すと解釈されるNPも$NP_2$として“把”構文の中で受け入れられることが分かった。このことはこれまでの“把”構文研究であまり取り上げられなかったが、疑問名詞句があらわすものや“一般”と解釈されるものも広い意味で特定

性を持っていることを指摘し、$NP_2$の意味的特徴はやはり“特定”であるとした。

次に第２章では“把”構文の中で受け入れられる動詞句を形態的な特徴に従って分類し、そのアスペクト的特徴について考察した。動詞句があらわしている出来事は、ある動作、行為の結果生じる $NP_2$ の状態変化を含意するか、または何らかの方法で動作の時間、量が制限されるかによって、明確な動作の終着点が与えられる。そしてその終着点を持った動作によってあらわされる出来事は完結性を備えていると結論付けた。

第３章では、$NP_1$ の“把”構文に対する意味的役割を考察し、それが、意識的に何らかの目的を持って動作を行う動作主というよりも“把”以下であらわされる出来事を引き起こす直接的または間接的な原因と見たほうが妥当であるということを示した。

第４章では、把＋$NP_2$＋$V_1$-$V_2$における $NP_1$、$NP_2$ と動詞連続との関係を特にその意味的観点から分析した。その結果、$V_2$は、$NP_2$の状態変化をあらわしていることを示した。

以上の観察を踏まえると、“把”構文の基本的な構文的意味は、$NP_2$のあらわす、何らかの意味で特定のものに対する、何らかの終着点（$NP_2$ のあらわすものの状態変化か、または動作の量的限界によって与えられる）をもった働きかけ（直接であるかもしれないし、間接的であるかもしれない。また言語化しないこともある。）が完結したことをあらわすということが明らかになった。

今後の課題として、“把”構文と他動詞構文で相互互換可能な文があるが、そのの違いは何か、またどのような場合“把”構文が選択されるのか、或いは他動詞構文が選択されるのかということの解明が残されている。

---

本論文を執筆するにあたりご指導いただいた、指導教官の湯川恭敏先生には、ご多忙の中、原稿を詳細に読んでいただき、多くの貴重なコメントをしていただいた。ここで心から感謝申し上げたい。また、例文の判断をしていただいた熊本大学社会科学研究科の賴雲荘女史にもお礼を申し上げたい。なお、内容についての誤りや不備は全て筆者の責任である。

## 引用文献

陳暁程（2001）「中国語の「把」構文の意味」『東京大学言語学論集』 :東京．東京大学人文社会系研究科・文学部 言語学研究室 20:181―220

Hashimoto.Anne（1971）“Mandarin Syntactic Structures”*Unicorn* 8:1－149 :Princeton University

Ke Zou （1995）“The Syntax of the Chinese BA Construction”*Linguistics* 31 :715―736

木村英樹（1983）「关于补语性此尾‘着’/zhe/和‘了’/le/」转载 现代汉语补语研究资料

Li Audrey（1990） *Order and Constituency in Mandarin Chinese* :Kluwer Academic Publisher

Liu Feng-Hsi（1997）“An aspectual analysis of BA” *Journal of East Asian Linguistics* 6 :51－99

呂叔湘（1980）『现代汉语八百字』:北京．商务印书馆

Mei Kuan（1978）“The BA sentences in modern Chinese”*Builetin of the College of fine*

*Arts* 27 :Taiwan. Taiwan University :145—180
Sijbesma.Rint（1992） *Causative and Accomplishments: the Case of Chinese ba* Doctoral dissetation :Liden. University of Leiden
王还（1985）「“把”字句中“把”的宾语」『中国语文』第 1 期 :北京. 商务印书馆
Ya Fei Li （1998）“Chinese resultative constructions and the Uniformity of Theta Assignment Hypothesis ” In Jerome L.Packard(eds.),*New Approaches to Chinese Word Formation.(Trends in Linguistics studies and Monographs105)* :185—310 :Berlin,NewYork. Mouton de Gruyter
朱德熙 （1981）『语法讲义』 :北京. 商务印书馆